Voice

Vol.8 ヴォイス 2012.3

大分県立芸術文化短期大学
サービスラーニング公式新聞
第8号／発行2012年3月23日

Output→

「自分発☆未来行」

竹田の最新情報!?
たけたみつけた

大分未来作り会議
大分夢色音楽祭

スマートフォン映像祭

地域発見! 佐賀関サイクリング

Output→

「自分発☆未来行」

未来の新しい自分へ。

サービスラーニングを通じて得た経験は、机の上で学ぶだけでは感じられなかった様々な発見や感動を与えてくれました。

―人とのつながりを大切に―これからの人生がより深く、豊かになるためのヒントがたくさん詰まっていました。

―自分発☆未来行―いつの間にか成長した未来の自分へと到着していました。

おおいた活性化ネットワーク

9月10日(土)に大分銀行ドームで「九州地区大会2011 in 大分」が開催された。

私はサービスラーニングがきっかけでおおいた活性化ネットワークに参加し、5月から月1回、大分青年会議所の人と大学生で話し合いを重ね、当日は3つのグループに分かれてステージイベントをした。

Aグループで保育園ぐらいの子供たちを対象に対戦型おもちゃでゲーム大会をした。私は司会をさせてもらったのだが、持ち時間より早く終わってしまい難しさを感じた。しかし、参加してくれた子供たちの楽しそうな顔を見ているとやってよかったなと思ったし、長い期間をかけて企画からやっていくということに対してやりがいを感じた。(情報コミュニケーション学科 1年 梶原 恵理)

◆大分活性化ネットワークとは?

大分市内の大学生・短期大学生を対象とした、
JCI大分青年会議所が主催のイベント企画・運営などを行う団体。
芸文短大からも多数の学生が参加し、
七夕まつりの七夕ブロードウェイ・おおいた夢色音楽祭・
青年会議所九州ブロック大会などに携わってきた。

情報コミュニケーション学科の学生が
ドラム・リーダーを務めるバンド『Ace Spade』

夢色音楽祭

10月8日(土)~10日(月)の3日間にわたり、大分市中心市街地にて大分青年会議所主催の「大分夢色音楽祭2011」が行われた。

芸文短大生は、8日と9日に行われた「みゅーじふるたうん」の運営ボランティアとして参加し30ケ所以上のストリートステージに分かれ、ビデオ撮影やパンフレット配りなどを行った。私が担当したのは両日とも「赤レンガスクエア」というステージで、主にビデオ撮影をした。

今回、夢色音楽祭にはじめてボランティアとして参加したことで、会場では自分の「魅せたい」音楽を体中で表現する出演者の方とその音楽を立ち止まって聞いている観客の方々の一体感から生まれる音楽の力を感じることができた。そして、その一体感を支えている実行委員の方やPA(音響)の方々がいてこの音楽祭は成り立っているという人と人とのつながりにとても感動を覚えた。

ビデオ撮影という重要な仕事もとてもやりがいがあり、自分のスキルにもなったがそれ以上に「音楽の力」の偉大さに気づくことができた2日間だった。(情報コミュニケーション学科 1年 高橋 愛実)

NPOニーズ調査研修

10月15日から翌年の2月4日まで、長期にわたりNPOニーズ調査研修に参加した。この研修は特定非営利活動法人「ふれあい囲碁ネットワーク大分」の方々の協力を得て実現したものである。

社会調査のスキルを磨くことを目的とし行われたもので、一般の方も参加した。講師として「ふくおかNPOセンター」代表の古賀桃子さんをお迎えした。

研修では各班に分かれ、調査地域・調査対象の設定や、調査票を作成するところからは始まり、社会調査にかかる工程を一から行った。

調査を進めるにつれ、当初の計画を変更せざるを得なくなったこともあり、大変さを身をもって感じた。私のグループは防災意識について調べた。自治会長さんや防災士の方など地域の協力を得て調査を行うはずだったが、話が伝わってない地域の方にはうまく調査内容を伝えることが出来なかった。

普段関わることのない人に自分の意思を伝えることの難しさを知った。ただ調査を行うだけでなく、多くの人と関わることで「コミュニケーションとしての調査」にもなったと思う。また、調査にかかるコストを考えるなど、学生を対象とした調査からは分からなかった苦労を感じることができ、良い経験をつむことが出来た。(情報コミュニケーション学科 1年 中村 恭子)

◆特例非営利活動法人ふれあい囲碁ネットワーク大分

「コミュニケーションプログラムを活用した人間関係づくり」という目標のもと設立された。
活動メンバーは学生、会社員、行政職員など多彩な顔ぶれとなっている。人とのつながりを大切に思い、
「人と人、心と心をつなぐ」ことに喜びを感じる人達が集まり、それぞれのペースで活動に参加している。

◆NPOニーズ調査研修の目的

現在、自治体や企業等の既存のセクターでは、細分化した事業を分担してこなす分業体制が取られている。
しかし、それらは効率的であっても合理的とはいえない場合も少なくない。
そのようないわゆる「政府の失敗」「市場の失敗」をフォローするのもまたNPOの役割である。
そうした背景から、特定非営利活動促進法(NPO法)が施行されて13年が経った現在、
多くの特定非営利活動法人が誕生し、その設立傾向はさらに活発になりつつある。
しかし、意欲的なNPOの取り組みが地域のニーズを置き去りにしてしまうこともある。
そうした行き違いを防ぐために、個々のNPOが社会調査のスキルを身につけ、
調査に基づいて自己点検ができるようにしようというのがこの研修の大きな目的である。

特集

Taketanitsuketa

発見・再確認した、暖かい声が聞こえてくるまち――たけたみつけた

1.2.3.スローライフ講座 4.楽市楽座 5.6.竹田2.11

竹楽（ちくらく）
毎年11月中旬に竹田市の街中で行われる。幻想的な空間を楽しみに、毎年多くの観光客が訪れている。

スローライフ講座

8月27日（土）、9月10日（土）に竹田市の中心市街地でスローライフ講座が行われた。

竹田商工会議所の協力のもと、竹田の豊かな生活を捉え直し、街のにぎわいを取り戻すことを目的に開催された。歴史文化や食などのワークショップに参加し、地域の方々との交流を行った。街なかにはたくさんの稲荷神社があり、それにちなんだ自分だけのオリジナルいなりずし作りなどの体験により、さらに竹田のことを知ることができた。とくに、街なかガイドでは地元の方しか気が付かないような、ぽっくり地蔵・ぽけない地蔵・ねつかぬ地蔵といった「3つの地蔵」の話などをうかがい、2回とも楽しく参加できた。（情報コミュニケーション学科 1年 中村 恭子）

楽市楽座

9月10日（土）竹田市商店街・いこいの広場にて楽市楽座が行われた。芸文短大は夏休みだったが、音楽科・情報コミュニケーション科から約30名の学生が参加した。

私はいこいの広場などでポップス・ライブの担当をし、ギターでの弾き語り演奏を行った。今回は打ち合わせ等が非常に少なく個人的にはあまり満足のいく状態ではなかったが、竹田の方々が声をかけてくださり、とても心地よい場所で演奏をすることができた。（情報コミュニケーション学科 1年 高橋 愛実）

イザベル音楽祭①

10月23日（日）「スローフードとの出会い」とともに開催した「イザベル音楽祭」に参加した。

今回は芸文短大の軽音楽サークルに所属するバンドで、2曲演奏させていただいた。

私たちのバンドのほかにも芸文短大「和太鼓サークル」や竹田市で活動しているアマチュアミュージシャンの方々が弾き語り・バンドなどそれぞれの形で音楽を表現していた。

今回このイベントを通して、イザベル音楽祭のPA（音響）さんや出演していた方々と音楽についての話や、このイベントについて話をすることができた。ほかにも演奏が終わった後に観客の皆さんが拍手をしてくださりとてもいい経験になった。（情報コミュニケーション学科 1年 高橋 愛実）

イザベル音楽祭②

10月23日（日）、わたしは初めて竹田へ行った。午後4時から、イザベル音楽祭があった。イザベル音楽祭とは、竹田には、昔、隠れキリシタンがいて、そのひとりの洗礼名にちなんだ名前の音楽祭だ。

わたしはそこで「ばななみるく」というバンドで出演させてもらった。最初はとても緊張した。しかし、竹田の方々が手拍子をしてくれたので、緊張もほぐれ、満足のいく演奏をすることができた。

わたし達以外にも地元の方も出演しており、にぎやかなものとなった。竹田の方々のあたたかみに触れることができたので、また竹田に行きたいと思った。（情報コミュニケーション学科 1年 小崎 平里）

竹楽

11月18日（金）～20日（日）の3日間、「竹楽」が竹田の街中で行われた。竹田市では山林が多くを占めており、その面積は540ha（東京ドーム約500個以上）と広い。竹林を保全するためには適度に竹を切り、密集を防ぐことが必要だ。そこで、長い年月（100年間）をかけて山林を守っていこうという里山保全百年計画の一環として、竹を利用した「竹楽」を行なっている。

竹田の街中には、至る所に2万本以上もの竹灯籠が並べられ、明かりがともされた。日が暮れるにしたがって幻想的な空間が広がった。それと共に「地産地消屋台村」というブースでは、地元の「食」だけでなく、竹田と交流の深い地域の「食」も楽しむことができた。私たちはその「地産地消屋台村」と、岡のいなりずしを販売している「屋台村」で利用者にアンケートを取ったり、より多くのお客さんを呼び込む手伝いを行った。普段の街中からは想像できないほどの人が来ており、驚くほどの賑わいであった。（情報コミュニケーション学科 1年 中村 恭子・安部 史佳）

竹田2・11

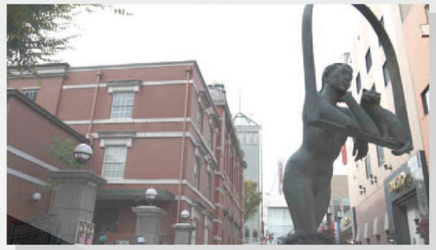
2月11日（土）、今年度竹田で活動した事の反省と来年度の取り組みについての話し合いが行われた。

これまでの活動を振り返り、竹田の方と学生から反省と、来年度竹田での活動をどうするかなどの意見が出された。

学生側からは「竹田の若者ともっと触れ合う機会が欲しかった」、「情報発信をしていきたい」などの意見が出された。竹田の方からは早速協力して欲しいことなどの提案を受けた。

お昼には、竹田の「食」を用意していただき、おいしいスローフードを堪能することができた。午後からは、祈り・出会いの八幡山ガイドとブログ・ツイッター講習が行われた。八幡山ガイドでは、子育観音と祈りや出会いの愛染堂や老後にまつわる3つの地蔵がある名水延命地蔵の3箇所が集まる広場を、「ゆりかごから墓場まで」と表現したことがとても印象的であった。

ブログ・ツイッター講習では竹田の方と一緒に学び、私は実際に登録も行った。今回は1日盛りだくさんの内容であった。（情報コミュニケーション学科 1年 中村 恭子）



スマートフォン映像祭

11月27日(日)に第二回スマートフォン映像祭が府内五番街の赤レンガ館で行われた。

映像祭では、韓国の学生と芸文短大の学生による作品や、府内をテーマにした芸文短大生の作品、一般の人の作品が公開された。ゲストには韓国から、ユ・デオル監督がお越しになった。

私は府内をテーマにした、府内五番街にある十三夜というお店のドキュメンタリー映像を作り、出品した。スマートフォン映像祭ということで、スマートフォンで映像を撮り、短編映像というきまりだったため、編集ソフトで15分以内にまとめて仕上げた。

当日は、赤レンガ館の外でもイベントが行われ、芸文短大生による府内五番街ラジオと、芸文短大の先生と生徒によるコンサートが行われた。

私は、府内五番街ラジオとミニコンサートに出演させていただいた。ラジオでは、学生7人が1人5分のコーナーを持ち、赤レンガ館の外で放送を行った。ラジオ番組では、『府内五番街ラジオ・in赤レンガ』ということで、府内や大分に関係する話をした。私は、方言についてのコーナーを担当させてもらった。

ラジオが終わると、ミニコンサートが始まり、芸文短大の高橋雅也先生によるギターの弾き語りや、学生によるギターの弾き語り、軽音サークルの学生によるバンド演奏が行われた。そのイベントで、私もバンド演奏を行った。

イベントの最中、入り口付近で竹田のすごあまこ～んを使ったお菓子が売られていた。映像祭終了後は、街づくりシンポジウムもあった。

午後からは、アクアパークにて「光のオブジェ」の点灯式が行われた。『PRAY　FOR　JAPAN』とかかれたオブジェは芸文短大の学生が作ったもので、とても綺麗だった。

この日は、私にとって、とても充実した一日となった。このイベントは第一回目であり、初めてだったが、初めての映像祭にしては出来が良かったと思う。第二回目はこれを上回るといいなと思う。(情報コミュニケーション学科　1年　小崎　平里)

サービス券
自分発☆未来行
23.11.27
芸文短大➡スマホ映像祭
23.11.27
本人限り有効・途中下車無効

佐賀関サイクリング

11月5日(土)に大分市主催で、旧日本鉱業佐賀関鉄道の廃線敷を走る佐賀関サイクリングが行われた。天気は雨だった。しかし、当日100名以上の参加者が集まり、決行することになった。

全国的にも珍しいサイクルトレインが運行され、自転車を電車に入れる作業を行った。私はA班で、参加者と一緒にサイクリングをするグループだった。話を伺ってみると、北九州からわざわざ来たという人もおり、『結構、凄いイベントなんだな』と思った。そして、佐賀関の景色を楽しみにして参加する人が多いというふうにも聞いた。

ここで一番凄いと思ったことが、市役所の行動力だ。大分の市役所の職員方は、イベントを企画し、休日に外へでてボランティアとして参加している。本当に素晴らしいことだと思った。私の地元、宮崎では、考えられないことだったため、大分県民の行動力に驚かされた。このイベントを通して、ますます大分が好きになった。(情報コミュニケーション学科　1年　小崎　平里)

天瀬バラ祭り

11月13日(日)天瀬グリーンツーリズム研究会が企画した「風と遊ぼう体験会」に参加した。

たこ揚げ、シャボン玉などの子ども向けワークショップの他、学生の企画した紙飛行機・ブーメラン・エコバックづくりなどのワークショップが行われた。これらのワークショップは子どもたちを喜ばせるために企画したものだ。

この日は、日田市天瀬町ローズヒルあまがせの「秋のバラフェア」が行われていたこともあり、多くの家族連れが訪れていた。バラフェアでは良い香りのするバラや色とりどりのバラが咲いており綺麗だった。ワークショップでは、凧を持って走りまわったり、風の力を利用した昔ながらの農機具の唐箕(とうみ)に興味を持ったりして遊んでいる子どもたちの楽しそうな姿を見ることができた。

私が担当していたシャボン玉などの子ども向けワークショップには、自分で考えて遊びを見つけていく子どもたちが大勢来てくれ、楽しんでもらえることができたと思う。(情報コミュニケーション学科　1年　中村　恭子)

サービス券
自分発☆未来行
23.11.05
芸文短大➡佐賀関➡天瀬
23.11.13
本人限り有効・途中下車無効

地域活動フォーラム

2月1日(水)大分市にあるコンパルホールで地域活動フォーラムが行われた。地域活動フォーラムは1年間を通して学生が携わってきたサービスラーニングについて発表をする場だ。

来賓には九州大学大学院・高野和良氏、大分大学・山浦陽一氏、和歌山県立医科大学・本郷正武氏、一橋大学大学院・恵羅さとみ氏といったフィールドワークに高い見識を持つ先生方が来てくださり、学生の発表に対して的確な講評をしてくださった。

「地域活動をして、君たちの成長は見られたが、地域自体は何が変わったのか?をもっと明確にしてほしかった」

「全体的に、発表者が下を向いていて、雰囲気が暗い」といったようなは厳しいコメントもあり、学生はその発表を省みる必要があったといえる。

省みる機会として与えられた講評後の答弁に対して、自分の体験を話すうちに感極まって泣き出す学生もいたが、共通していえることは「とてもするどい講評が多かったが、その講評を活かしながら次の活動につなげたい。そして今年以上にもっと地域を活性化させたい」という思いだといえる。

私は、このVoiceの編集部として最後にVoiceの宣伝をさせていただいたが、大舞台に立って人前で話すのはとても緊張するものだと感じた。きっと発表した学生もそれ以上に緊張したのではないかと思う。

今後もサービスラーニングでの活動は続く。今回の地域活動フォーラムは、活動に新たな視点を持たせることができた良い発表の場になったのではないだろうか。(情報コミュニケーション学科 1年 髙橋 愛実)

Last Chorus♪ ～編集後記～

一年間Voiceの編集長として制作に携わって、いろいろなことを学べた。貴重な経験もさせてもらうことができたので、今後に活かしたいと思う。(情報コミュニケーション学科 1年　髙橋 愛実)

どのような過程を経てVoiceができるかがわかった。是非多くの人に手にとって読んでほしいと思うものができた。(情報コミュニケーション学科 1年　安部 史佳)

読んでもらう文章を考えるのは難しかった。1つのものを作り上げる大変さがわかり、良い経験ができた。(情報コミュニケーション学科 1年　中村 恭子)

私は文章を書くことが苦手だったが、Voiceの編集を通して書くことへの苦手意識も少なくなり、少しは克服できたと思う(U^ω^U)(情報コミュニケーション学科 1年　小﨑 平里)

Voice
大分県立芸術文化短期大学 サービスラーニング公式新聞
〒870-0833　大分市上野丘東1番11号　大分県立芸術文化短期大学
tel.097-545-0542(代表)／fax.097-545-0543
Voice 第8号　2012年3月23日発行